

ほうでえ～

ありゃ～のう

# 周防大島町の話題



▲会場には 320 名の方が  
詰めかけました

## 防災講演会を開催しました

2月11日、山口県大島防災センターにおいて、周防大島町防災講演会を開催しました。

講師に群馬大学大学院教授の片田敏孝先生をお迎えし、「近年の大規模災害に学ぶ地域防災のあり方」と題してご講演いただきました。

片田先生は、東日本大震災前から釜石市で防災教育に携わられ、多くの市民が高台避難することができた平素の取り組みをはじめ、土砂災害が頻繁に起こる地域の取り組み事例などを紹介。その中で、「子どもたちは大人たちのふるまいの中で育まれていく」点を重要視し、「家庭の中の話でこそ真剣に身を守る行動を話し合っておかなければいけない。防災の実効性は家庭にある」と強調。また、「避難という面では土砂災害が一番難しい」とし、台風の強化も含め、予測不能の豪雨なども、いっどこで起きるか分からない状況になっていることから、「地域や自分自身の最適な行動を主体的に考えておく必要がある」ことなどを話されました。



「地域で支え合う仕組みを考えて、地域の安全を高める工夫を。身を守る行動が家庭や地域に根付いてほしい」と片田先生

## 園児にポンカンをプレゼント



▶おいしくいただきました

島の特産品を食べて寒い冬を乗り切ってもらおうと、山口大島農業協同組合が町内の保育所と保育園に、旬を迎えたポンカン5kg入り計22箱を贈りました。

2月2日、久美保育所で行われた贈呈式で吉村基組合長が「しつかり食べて元気ががんばって」とあいさつ。園児たちは早速贈られポンカンを食べ、口々に「おいしい！」と笑顔を見せていました。

## 「桜でいっぱい」に「植樹祭を開催

2月26日、三浦小学校の校庭において植樹祭が開催され、蒲野保育所の園児や三浦小の児童、地域の方々や関係者約80名が参加し、桜の苗木13本を植樹しました。

植樹祭はボランティア団体「美しい三浦を創る会」の主催で毎年行われているもので今回が9回目。今回の植樹は、校庭の桜が経年により衰退してきていることを受けて実施されたもので、大人たちの協力を得ながら、小学生が中心となって丁寧に植えていきました。



▶『桜への想い』を記したメッセージプレートを添えました